

IRCJ

Industrial Revitalization Corporation of Japan

第8回新しい地方財政再生制度研究会

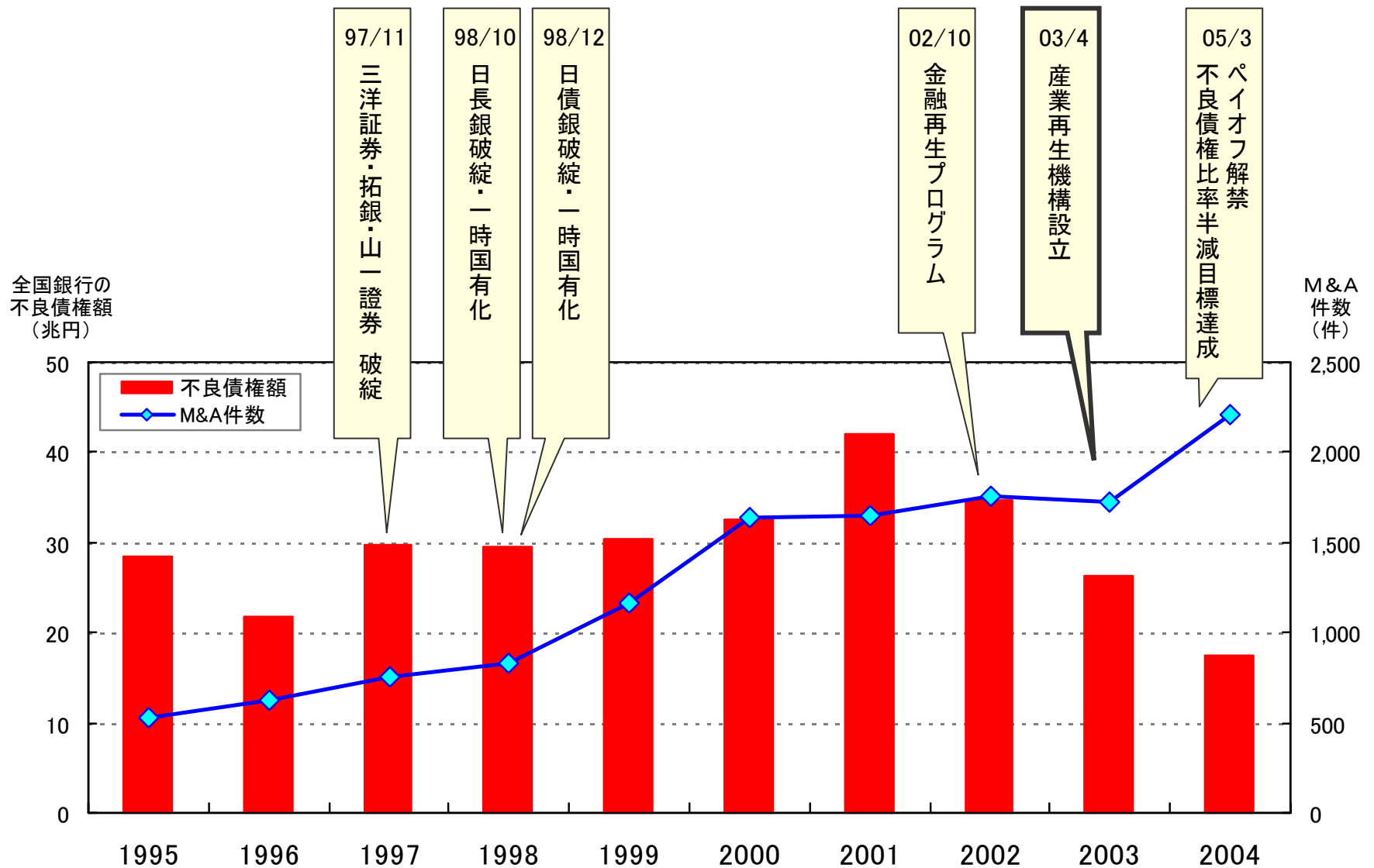
平成18年11月17日

産業再生機構

代表取締役専務 富山和彦

	ページ
1. 日本不良債権問題の推移	2
2. 不良債権処理と企業再生(2003年以降の日本型「金融と産業の一体再生」アプローチ)	3
3. 真の企業再生(真の不良債権処理)の成否を分けるもの	4
4. 産業再生機構の概要	5～6

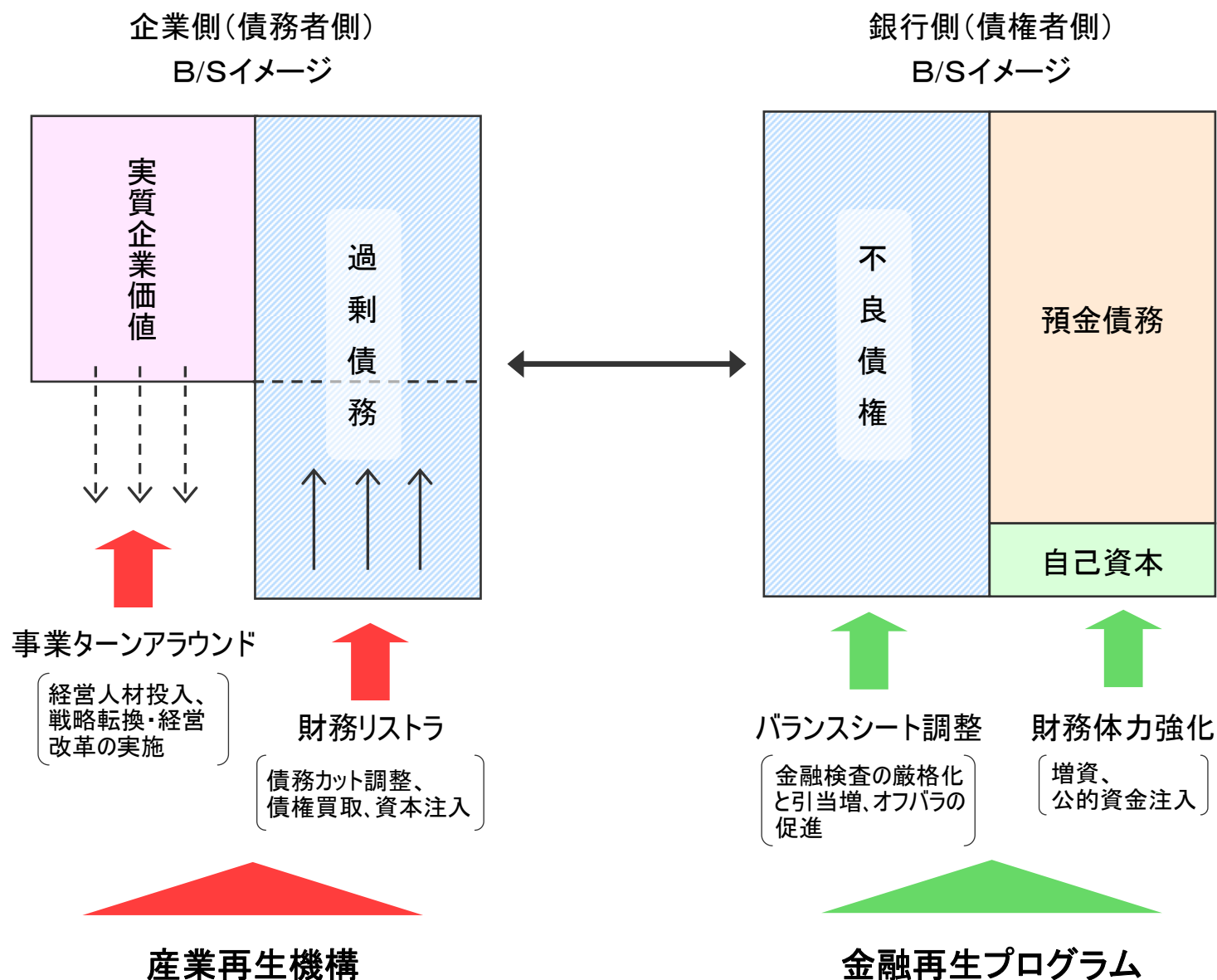
1. 日本の不良債権問題の推移



- 注) 1. 不良債権額(左軸、金融庁)は各年度末(3月末)におけるリスク管理債権残高の数字。なお、96,97年度はリスク管理債権の計算基準が一部変更(3ヶ月以上延滞債権の開示、貸出条件緩和債権や延滞債権の拡大など)。
2. 日本のM&A件数(年中、右軸)は(株)レフコ「MARR」2005年7月号による。

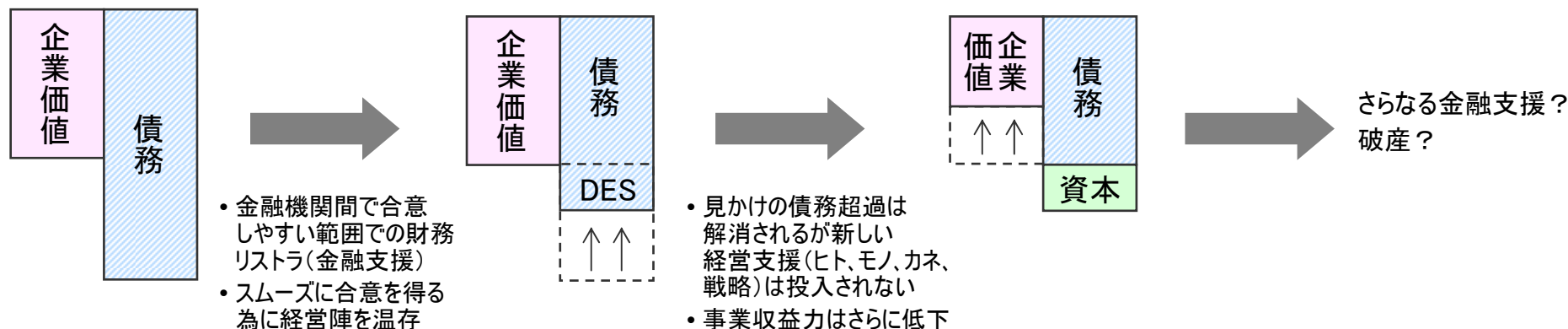
2. 不良債権処理と企業再生（2003年以降の日本型「金融と産業の一体再生」アプローチ）

IRCJ 産業再生機構

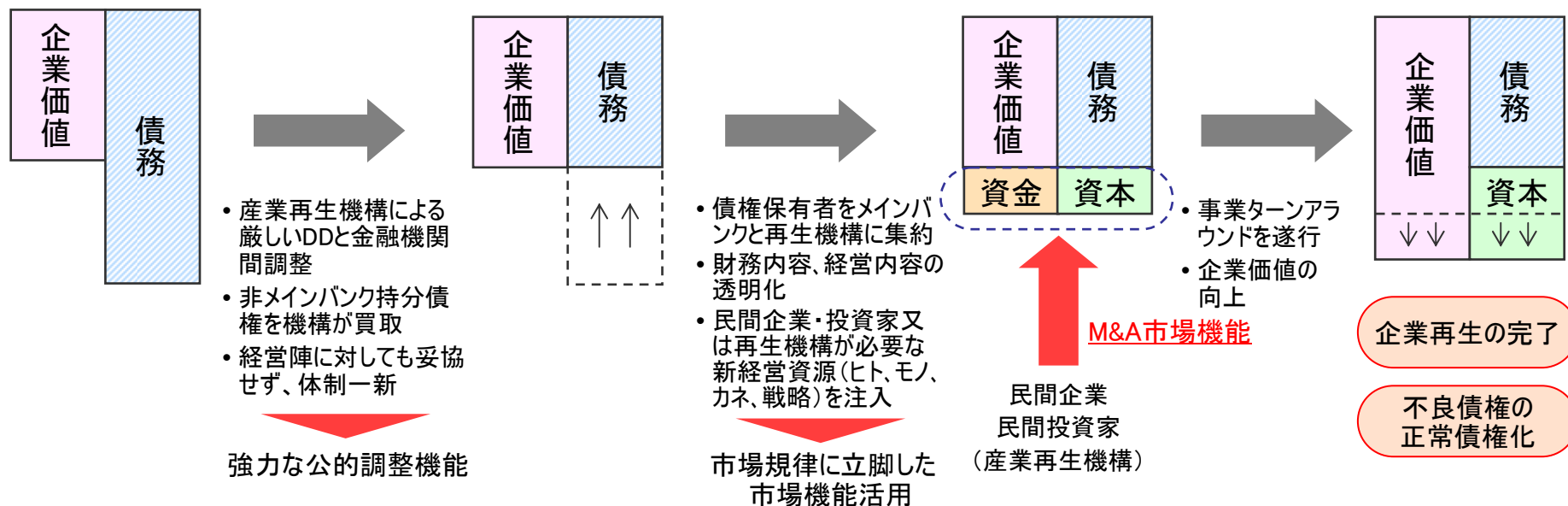


3. 真の企業再生(真の不良債権処理)の成否を分けるもの

【典型的失敗パターン】



【産業再生機構】



4. 産業再生機構の概要

- 設立: 2003年4月16日
- 目的: 債権買取機能(金融機関調整機能)、出融資機能、経営支援機能を通じて有用な事業資源(ヒト、モノ、ノウハウ、のれん、知財など)を過剰債務のくびきから切り離し、事業再生を促進する
- 業務: 不振企業向けの債権を「市場価格」で買い取り、必要な場合はその上に資金や人材を投入して事業再生を支援する。
- 資本金と株主: 資本金505億7百万円(増資完了時) 株主 預金保険機構、農林中央金庫(増資完了時)
- 資金枠: 政府保証枠10兆円(実際の資金調達は6ヶ月の短期資金を市場から入札で調達)

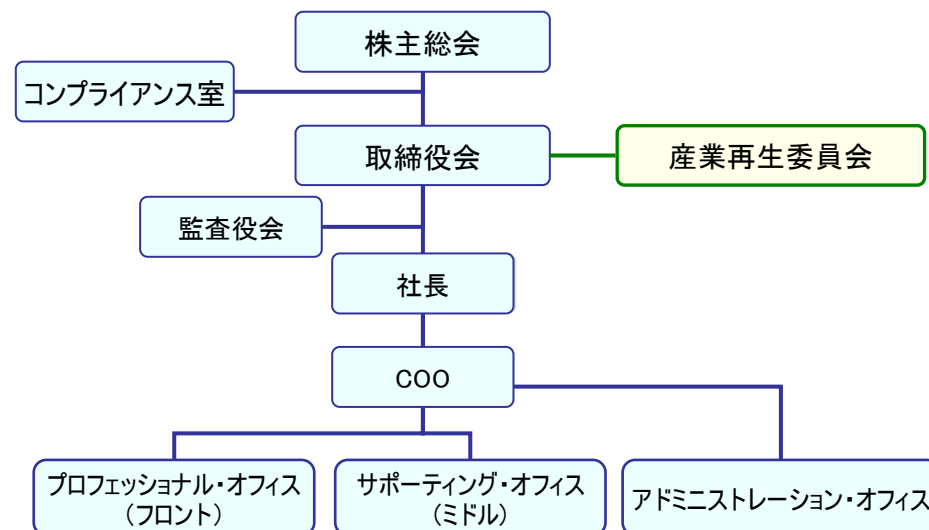
- 組織:

齊藤 惇	代表取締役社長
高木 新二郎	取締役
翁 百合	取締役(非常勤)
下河邊 和彦	取締役(非常勤)
田作 朋雄	取締役(非常勤)
松田 京司	取締役(非常勤)
三木 利夫	取締役(非常勤)

産業再生委員
産業再生委員長
産業再生委員
産業再生委員
産業再生委員
産業再生委員
産業再生委員
産業再生委員

産業再生委員会

- | | |
|-------|----------|
| 日野 正晴 | 常勤監査役 |
| 生駒 俊明 | 監査役(非常勤) |
| 横山 禎徳 | 監査役(非常勤) |
| 富山 和彦 | 代表取締役専務 |
| 中村 彰利 | 常務取締役 |
| 小野 伸一 | 執行役員 |
| 吉澤 吾一 | 執行役員 |
| 渡辺 美衡 | 執行役員 |
| 関 敦彦 | 執行役員 |



4. 産業再生機構の概要

- 人員：

産業再生委員会： 委員長を含め7人で構成されるが、政府や銀行界の利益代表者は一人も入っておらず、有識者が全て独立した個人の立場で参加。

執行部： CEO, COO以下、大半のスタッフを民間から直接採用。金融の専門家だけでなく、経営、会計、法務など、幅広い分野から一流のプロフェッショナル百名以上を集めた。

- 取扱い案件数： 41企業グループ(背後にはその数倍の数の企業グループのDue Dilligenceを実施)

- 取扱い債権額面額： 約4兆円(産業再生機構モデルである「財務リストラ」と「事業ターンアラウンド」の表裏一体アプローチの普及により、その外側でも不良債権処理と企業再生は加速)

- 今後の展望： 41案件中、既に39件が再生完了(IRCJ保有の株式、債権ともに市場売却済み)。今後は、速やかに残りの案件の再生と資産売却を進め、存続予定期間(2008年3月までが目途)のできるだけ早い段階での業務完了を目指す。

IRCJ

産業再生機構

問合せ先:03-6212-6400(代)